



KITAMI BASKETBALL ASSOCIATION



2024年度
第55号

北見地区バスケットボール協会機関誌

2025年度 北見地区協会 開催日程

◆第40回北海道中学校バスケットボール新人北大会

2025年12月26日(金)～28日(日)

道立北見体育センター 他

目 次

協会役員名簿	1
所 感	会 長 河合 昭徳 2
一年を振り返り	理事長 牧野 俊樹 3
各 部	
全国大会を終えて	審判委員長 齊藤未世志 4
1年を振り返って	北見地区バスケットボール協会U15部会部会長 豊口 光宏 6
北見地区バスケットボール発展の為に	
北見地区バスケットボール協会U12部会部会長 宮村 哲樹 7	
2024年度 医科学研修会	8
2024年度 指導者講習会(兼)JBA公認コーチリフレッシュ研修会	8
特 集Ⅰ 第7回北海道社会人O-40/O-50,MF-50・60、クラブバスケットボール交歓大会	9
特 集Ⅱ 美幌シニアクラブが5年振り「八幡カップ全国大会」出場	11
特 集Ⅲ 北見籠球会O-40が3年連続で全国大会に出場	12
優勝チームから	
バスケットボールと人間性	北見藤高等学校男子バスケットボール部主将 伊藤 愁 13
三年間を振り返って	北見藤高等学校女子バスケットボール部主将 橋本菜々美 15
1年を振り返って	北見市立小泉中学校男子バスケットボール部主将 小山田 琉 17
みんなとの夏	北見市立南中学校女子バスケットボール部主将 久保田愛梨 19
『最強な仲間と練習してきた3年間』	小泉・端野ミニバスケットボール少年団主将 神戸 冴介 21
思いが力になる	北見ボプラガールズ少年団主将 田中 莉子 23
各種大会記録	
2024年度 大会一覧表	25
各種大会スナップ	26
U-12	35
U-15	43
U-18	53
クラブ	61
2023年度決算	69
2024年度予算	70
公認審判員名簿	71
2025年度大会開催日程(全道・全国)	72

北見地区バスケットボール協会役員名簿 (令和6年度)

〒090-0058 北見市高栄西町8丁目9-9
協会事務局長 小林 亮太
TEL 080-4500-6160

会	長	河 合 昭 徳(北見)	理 事(U 12)	宮 村 哲 樹(美・津)
副 会 長(代表)		小 柳 亨 信(北見)	登録推進担当(U12)	吉 岡 俊 尚(北見)
副 会 長		太 田 耐 輝(北見)	総務委員長	後 藤 良 樹(北見)
"		本 田 俊 之(網走)	総務副委員長	太 田 吉 英(北見)
"		森 玉 喜(遠・紋)	普及委員長	吉 岡 俊 尚(北見)
"		大 谷 秀 之(美・津)	普及副委員長	三 浦 吉 平(北見)
相 談 役		栗 山 太 郎(北見)	競技会委員長	福 岡 信 也(美・津)
顧 問		中 山 正 幸(北見)	競技会副委員長	大 浦 泰 廣(遠・紋)
"		佐々木 英 寿(北見)	審判委員長	齊 藤 未 世 志(遠・紋)
"		藤 澤 徳 麿(北見)	審判副委員長	菊 地 伸 幸(遠・紋)
"		田 卷 司 史(北見)	強化・育成委員長	蛭 名 智 規(北見)
参 与		新 本 卓 生(北見)	強化・育成副委員長	櫻 田 和 英(遠・紋)
"		木 村 一 夫(北見)	"	一 瀬 隆 也(遠・紋)
"		船 戸 清 司(北見)	"	黒 川 達 也(遠・紋)
"		黒 部 一 哉(北見)	医科学委員長	菊 地 学(北見)
"		垣 内 孝 仁(網走)	医科学副委員長	阿 部 忍(北見)
理 事 長		牧 野 俊 樹(北見)	"	本 田 将 斗(北見)
副 理 事 長		山 崎 武 夫(北見)	"	福 山 優 花(北見)
"		佐 藤 尚 昭(北見)	広報委員長	永 澤 儀 倫(北見)
"		後 藤 良 樹(北見)	広報副委員長	立 花 秀 浩(北見)
理 事(北見)		深 瀬 厚 志(北見)	監 事	坂 本 浩 司(北見)
" (斜・網)		北 原 誠 一(網走)	"	八 百 坂 則 勝(網走)
" (遠・紋)		蝦 名 准(遠・紋)	事 務 局 長	小 林 亮 太(北見)
" (美・津)		川 崎 勝 美(美・津)	事 務 局 次 長	佐 々 木 強 志(北見)
" (シニア)		斎 藤 隆 幸(北見)	事 務 局 員	藤 田 真 徳(北見)
" (社会人)		豊 田 尚 希(北見)	" (社会人)	瀬 戸 孝 二(北見)
登録推進担当(社会人)		宮 野 くるみ(美・津)	" (U 18)	小 林 愛(北見)
理 事(U 18)		菅 野 剛(美・津)	" (U 15)	麻 畠 奈 緒(網走)
" (U 15)		豊 口 光 宏(北見)	" (U 12)	小 里 純 平(置戸)



所 感

北見地区バスケットボール協会

会 長 河 合 昭 徳

平素より当協会の活動に対し、ご理解とご協力を頂いております皆様へ心よりお礼申し上げます。併せて、少年団活動、部活動、クラブ活動等に尽力頂いている指導者、審判員など関係各位に敬意と感謝を申し上げます。

お陰をもちまして、HBA委嘱事業であります北海道社会人O-40/O-50BB交歓大会をはじめ2024年度に予定されていた各部会全事業を無事成功裏に終えることが出来ました。

また、北見市スポーツ協会・NHK・当地区協会で主催・所管したレバンガ北海道・ロコソラーレとのコラボ事業「トップアスリートクリニック」や「NHKスポーツ1DAY」では、レバンガから菊地広人選手・中野司選手、ロコソラーレからは藤澤五月選手・吉田知那美選手・鈴木夕湖選手・吉田夕梨花選手という憧れの選手達から多くの小中学生が指導を受け、トークライブも開催されるなど参加者及び見学者を魅了しました。

2025年1月には、北見市出身の越田大翔選手(ポプラミニ→北見北中→仙大付属明成高→明治大学)がレバンガ北海道に練習生として参加するという報道があり、オホーツク地域のバスケットボールファンにとって大変喜ばしいニュースとなりました。

3月には医科学研修会と指導者講習会(JBARフレッシュ研修会)が開催され、指導者・保護者等が参加し研鑽されました。

講師を務められた医科学委員会(本田将斗)副委員長とオホーツクブラックイーグルス(大浦幸一)HCに改めて感謝申し上げます。

次に、全道ミニバスケットボール大会に於いてポプラガールズが前年の準優勝に続き3位、北海道中学校大会で北見小泉中(男子)が3位、U15全道新人北大会では北見小泉中(男子)と美幌北中(女子)が準優勝、北見南中(男子)が3位、社会人男子シニアチームとマスターズチームが昨年一昨年に続き全国出場を果たすなど各カテゴリーで成果を発揮されましたことは、各チームが努力した結果が表れた大変嬉しい大会報告となり、とても感慨深く思っております。

結びに、地区協会が競技普及と技術向上のための研修機会を提供出来ることは、日頃から結束して事業推進に取り組まれている役員各位の努力の賜物であり、改めて心より感謝申し上げますとともに、今後も委員会及び部会が確り連携し情報共有を図り、継続して事業推進に尽力頂けますよう祈念し所感といたします。

一年を振り返り

北見地区バスケットボール協会

理事長 牧野俊樹

昨年の理事総会において、後藤前理事長の後任として選任され早いものであったという間の一年でした。

今年度、当地区の全道規模の事業といたしましては、10月にO-40・O-50B交歓大会を盛況裏に開催することができました。これもひとえに社会人部会長はじめ役員各位のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

2024年度の各種事業・大会を振り返ると、U18部会・U15部会の春季大会から始まり、U12部会の夏季大会予選会、道新杯社会人部会春季大会と続き、年明け3月には総合選手権大会、医科学委員会、公認コーチ研修と、毎月何かしらの各種事業・大会が行われていました。各部会長・各委員長、役員・関係者の皆さまのご協力の賜物であると存じ上げます。また、指導者や審判の方におかれましては、各種事業・大会のほか、自チームの練習試合・遠征などで休む暇もなくバスケットボールに明け暮れていたことと思います。

2024年度、U12部会ではルール改正ではありませんが全国ミニバスケットボール大会でのスリーポイントシュートなどの特別ルールが2025年度の各種大会への影響がどのようにでるのか、U15部会では中学校部活の地域移行に向けた議論が始まり、北見市においては2026年の中体連終了後にすべての部活を廃止し地域移行を行うため各大会の参加の有無の影響、U15部会ではNewブロックリーグの新設、社会人部会では国民スポーツ大会の在り方や二種登録の推進などそれぞれの部会で変革の時期に来ております。地区協会としても道協会の推移を見ながら情報を収集しその対応にあたっていきたいと思っております。

さて、今年度は私にとって役員改選後、初めての1年間でありました。就任して間もない私を支えて頂いた河合会長をはじめとする役員の方々のお陰で何とか一年間職責を務めることが出来たと思っております。感謝に堪えません。

最後に2025年度事業ですが、全道規模の大会として中学新人北大会が12月に開催されます。大会ホスト地区として準備・運営にご苦勞頂きますが、U15部会中心にご尽力頂けます様、役員各位に重ねてお願い申し上げます。



全国大会を終えて

北見地区バスケットボール協会

審判委員長 齊藤 末世志

今年度も皆様のお力添えのもと、1年間の全事業を終えることができました。これも関係される多くの方々のご協力があったのであり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

北海道では、令和4年度の全国中学校大会を皮切りに、全国大会の開催が続いています。本年度は、7月8日から14日に札幌市で第2回全日本大学バスケットボール新人戦(新人インカレ)が、8月24日から25日には釧路市で第59回全国高等専門学校体育大会バスケットボール競技(全国高専)が開催され、当地区からは、新人インカレに7名、全国高専には10名を派遣しました。

全国高専については、天皇杯・皇后杯の北海道代表決定戦と日程が重なり、道東ブロックの審判員で運営がなされましたが、全国大会を担当するにあたっての各審判員の準備はもちろん、日頃の取り組みが成果として現れ、2日間の日程を大きな問題無く終えることができました。

今回は、全国大会を初めて担当した審判員の貴重な経験を稼働報告として紹介し、北見地区へ還元させていただきます。

全国高等専門学校体育大会への稼働を終えて

石川 愛水

全国大会の稼働は初めてでありましたが、会場に入るとどのチームもコーチ・選手の熱量が高く、特別な空気を感じました。チームはこの大会に強い思いを持って臨んでいるということを再認識し、一層気を引き締めました。相手審判の方とのカンファレンスでは、試合の入り方、判定の基準作りを中心に打ち合わせをし、責任を持って1試合吹こうと思い臨みました。

担当した試合は、核になる選手のスキルが特に高く、交代で出場してくる選手の役割も明確であり、流れが行ったり来たりする白熱した試合展開となりました。両チームともプレスディフェンスを備え、ファウルを怖がらずにどんどん前に出てくるため、基準を示すことが重要でした。プレーの勝ち負け、次のプレーへの影響を意識しながら吹くことを心がけましたが、流れが行ったり来たりする中で判定の線引きをすることの難しさを改めて実感しました。

この試合を担当して感じた私の課題は、突発的に起こる状況についてあと2手先を予測できる位置を取ることです。また、ルールの解釈をより深めていくことが、1試合を通じてどのような状況においても、安定した判定力につながると思いました。私自身、これで良いと思うことなく、与えていただいた試合を常に全うできるようにこれからも取り組んでいきたいです。この大会で貴重な経験を積むことができました。本当にありがとうございました。

全国高等専門学校体育大会の稼働を終えて

田尾 優 樹

この度、第59回全国高等専門学校体育大会に稼働させていただきました。担当した試合は、男子の「佐世保高専(長崎)対 大島商船高専(山口)」、「香川高専高松(香川)対 鈴鹿高専(三重)」で、優勝・準優勝したチームの試合を担当でき、とても貴重な経験になりました。

担当した試合を振り返り、私の中で大切だと感じたことが2点あります。1点目は、責任をもってプライマリエリアをレフリングし続けることです。自分のエリアを1試合通して吹き続けることが、よいゲームコントロールにつながるため、今後も意識していきます。2点目は、コールザオピアスを意識し、より良い判定にこだわることです。試合の映像を確認すると、ファウルと判定する触れ合いを決断できずにプレーが進んでしまうケースがありました。冷静に判断できるメンタル、根拠のある判定につながるポジションアジャストを意識し、研鑽に努めたいと思います。

1日目のみの担当でしたが、最終日も観戦させていただきました。他の審判員を見ていると、私のプレーの見方や笛の入れ方などに違いがあり、とても参考になりました。より多くの試合を見て、吹いて、経験をたくさん積みたいと思います。また、日々のトレーニングに励みながら、今回の経験を今後の北見地区の競技力向上に寄与していきたいと思います。

全国高等専門学校体育大会を終えて

豊田 修 司

大会1日目、男子予選リーグの佐世保高専(長崎)対 長野高専(長野)の試合を担当しました。高専の試合を担当するのは初めてなので、多くの試合を見ながら選手の技術やプレーの仕方を確認して試合までの時間を過ごしました。

担当した試合では、両チームともディフェンスを頑張るチームでした。クルーチーフが序盤から示した基準に沿って、落ち着いて判定することができました。地区大会で「POCをもっと意識して」という助言をいただいていたことが良い判定につながったと思います。また、自分の判定に対する選手から説明を求められた際に、簡潔に伝えて納得してもらうことができました。

課題としては、プレー強度が上がったときに落ち着いて判定し続けるという点です。リードの位置取りが中に入りすぎたり、ボールばかり見てしまうことで、良い判定ができなかった時間がありました。選手たちと一緒に試合に入り込みすぎていたので、このような場面でのメンタルの安定とより良いポジショニングという点をさらに高めていきたいと思います。

初の全国大会でしたが、北見地区での取り組みが試合中に自分を助けてくれました。今後も、当地区のさらなるレベルアップを審判の面からも支えられるよう、取り組みたいと思います。

私は新人インカレを担当させていただきましたが、ゲームレベルが上がるにつれて、選手の強さやプレーの速さも上がっていき、判定材料の収集が難しくなっていました。当地区での取り組みや進んでいく方向は良いと思いますが、難しい試合を担当するためには地区大会でのメカニクスや判定の精度をこれまで以上に上げていく必要があると感じました。北見地区は全国大会に出場するだけでなく、そこで勝ち上がっていかねばならない地区です。そういったチームの試合を担当するという意識を持つとともに、「審判は規則を堅持してプレーヤーの足りないところを補いつつこれに健全な方向を与えるとともに、そのゲームを公正にかつ円滑に運営する」ということをゲームレベルに関係なく追い求めて取り組んでいきます。

最後に、今後もさらなる審判員の発掘と育成を目指し、関係機関と連携して委員会の活動に取り組んで参りますので、ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



1年を振り返って

北見地区バスケットボール協会U15部会

部会長 豊口光宏

今年度も、地区協会、選手・保護者、そして、審判員、指導者や、多くの関係スタッフ等の活躍と協力に支えられて、すべての大会を滞りなく行うことができました。保護者からの大きな声援は、選手だけでなく、コーチの支えともなっておりました。U15部会を代表して、すべての方々に改めて感謝申し上げます。

今年度のU15部会の試合は、春季大会から北北海道大会に至る多くの試合で、競った試合が増え、男女のそれぞれの選手の技術力が向上していることを実感する事ができました。コーチの巧みなベンチワークにより数秒間に目まぐるしく試合が入れ替わるような手に汗にぎる試合展開に何度も感動させられました。また、そのゲームを支えてくれたオホーツクの審判員の技術レベルの高さは目を見張るものがありました。北大会の最終日にオホーツクの審判員が6名も指名されていることから、そのことを物語っていると感じております。審判員の皆様の日々の研鑽に大変感謝申し上げます。

中体連地区大会では、女子は北見南中学校、男子は北見小泉中学校が優勝し、全道大会に出場しました。室蘭市で行われた全道大会では、特に男子の北見小泉中学校が準決勝まで勝ち進むなど全国まであと一步というところでした。

地区新人大会で代表権を得た女子の美幌北中学校(拠点校)、置戸中学校、北見南中学校、男子の北見南中学校、北見小泉中学校、斜里中学校が、旭川市で行われた北北海道大会に出場。すべてのチームが予選リーグを突破し、決勝トーナメントに進みました。特に男子は地区新人大会の決勝戦と同じ北見南中学校と北見小泉中学校のオホーツク対決を再び観ることができました。このゲームをものにした北見小泉中学校が準優勝で大会を終えることができました。また、女子も美幌北中学校(拠点校)が今年も決勝戦まで勝ち進み、男女ともに北北海道大会の最終日にオホーツクのチームを応援する喜びを味わうことができました。

今年度のU15部会のもう一つの大きな出来事として、北見市の部活動地域移行の準備が進んだことがあげられます。中体連は学校単位での出場が基本となることや、移籍の可否、大会要項の改訂と大会日数の確定、指導者名簿の整備など、道協会や北海道中体連事務局と確認を進め、それを地区協会の皆さんや他のカテゴリーの指導者にも情報を共有して進めてまいりました。これまでは教員が受け持ってきた部活動の指導を、これからは地域の方やU12部会の指導者にも協力を仰ぎながら、選手たちの活動場所が確保できるように努めてまいります。

最後になりますが、オホーツクのバスケットが更に発展し、ここから再び全国大会への出場、そして全国で2勝するチームが出てくるよう応援していきます。



北見地区バスケットボール 発展の為に

北見地区バスケットボール協会
U12部会 部会長 宮村 哲樹

2024年度、北見地区バスケットボール協会U12部会の事業に対し、関係機関の皆様のご支援とご協力頂き、すべての事業が無事に終了出来ました事に、この場をお借りし、心より厚くお礼申し上げます。

今年度、U12部会が担当する事となった大きな大会として、2024北海道ブロック道東大会を開催しました。毎年1月に行われる北海道選手権に出場が出来なかった上位2チームが参戦出来る大会として、2022年度より地域ごとに開催をしており。道東は3地区で行う大会となっており、北見での初開催となりました。部会役員も様変わりし、知識と経験のない中、諸先輩の方々からご指導を頂き、無事開催出来ました事に感謝申し上げます。

そして今年も、北海道選手権・北海道ブロック大会へ出場した北見地区代表チームの活躍は、大変素晴らしかったと思います。北海道選手権では、ポプラガールズのベスト4。網走ミニバス女子が初出場でのベスト16。男子小泉端野は、優勝チーム札幌白石との激闘等、北見地区で育てた選手達は今年も北海道トップレベルにあると、各地方に印象付けてくれたと思っています。

北見地区から巣立った選手の中には、レバンガ北海道に在籍している4選手がいます。関野剛平選手(湧別ミニ)、菊地広人選手(当時北見小泉ミニ卒)、特別指定選手の阿部竜大選手(北見南ミニ卒)、練習生の越田大翔選手(ポプラミニ卒)が、地元北海道のB1チームに在籍し活躍しています。地区として、大変喜ばしい事です。

ただ近年、U12部会の事情は大変厳しいものとなっています。「移籍」制限の緩和により、技術や能力ある選手達が集まり、都心部のチームが強豪チームへと変貌し、北海道大会で成績を残す難しさに直面して来ています。

この事について否定的な考えもありますが、「移籍」は否定されるものではなく、選手達に取っては選択肢が増える事になり、プレイヤーズファーストの理念の下、寛容な措置だと捉えています。北見地区の「移籍」に関して、オホーツクという広大な地域性もあり、なかなか自由にはいかない難しい問題かと思えます。

したがって、我々指導者が目を向けるべき事は、勝ち負け以上に選手達の「育成」だと感じています。指導者の皆さんには、これからも変わらず選手「育成」にご尽力頂ければと願っています。

今年度を締め括る大いに沸いた話題として、京王Jrウィンターカップ優勝のRIZINGS徳島、Softbankウィンターカップ準優勝の鳥取城北高校と、地方のチームが常勝強豪校を破り、ファイナルへと駆け上がった、サクセスストーリー。この2チームの様に、目の前にいる選手達と向き合い大切にする事。北見地区で育てた選手達が、今後BリーグやWJBL、そして日本代表で活躍してくれる事を思い描き。北見の地がバスケットボールで「夢を持てる地域」へとなるように、皆さんの力で北見地区の発展へと繋げて頂ければ幸いです。

来年度もU12部会事業の更なる発展の為に、各関係機関の皆様のご指導・ご支援頂けます事を願い、挨拶と代えさせていただきます。今後とも、何卒宜しくお願い致します。

2024年度 医科学研修会

講師：本田 将斗 氏

(北見地区バスケットボール協会医科学委員会副委員長・スポーツクラブ
PHYSITCONDITIONINGスタッフ)

日時：2025年3月2日(日) 14:30~16:30

場所：北海道立北見体育センター講堂

「ベストパフォーマンスを引き出すために」と題し、医科学委員会(委員長 菊地 学)が主管となり、年代別トレーニングやコンディショニングについてスポーツトレーナーの知見から前半は座学講義、後半は場所を北見市立体育センターアリーナに移しストレッチの実技講習を実施。選手・指導者・保護者25名が真剣に受講した。



2024年度 指導者講習会(兼) JBA公認コーチリフレッシュ研修会

講師：大浦 幸一 氏

(JBA公認B級コーチ・北見地区バスケットボール協会 U15 部会ユース
育成委員・オホーツクブラックイーグルスHC)

日時：2025年3月20日(木祝) 9:00~12:00

場所：北見市立北中学校体育館

「アンダーカテゴリーで身に着けたいオフェンス・ディフェンスファンダメンタル」と題し、強化育成委員会(委員長 蝦名智規)が主管となり、講師のこれまでの経験や恩師からの学んだ原理・原則を紹介しながらU14DC女子チームをモデルに練習ドリルを講義され、北見・旭川・釧路地区などの熱心な指導者50名が参加し、充実した講習会となった。



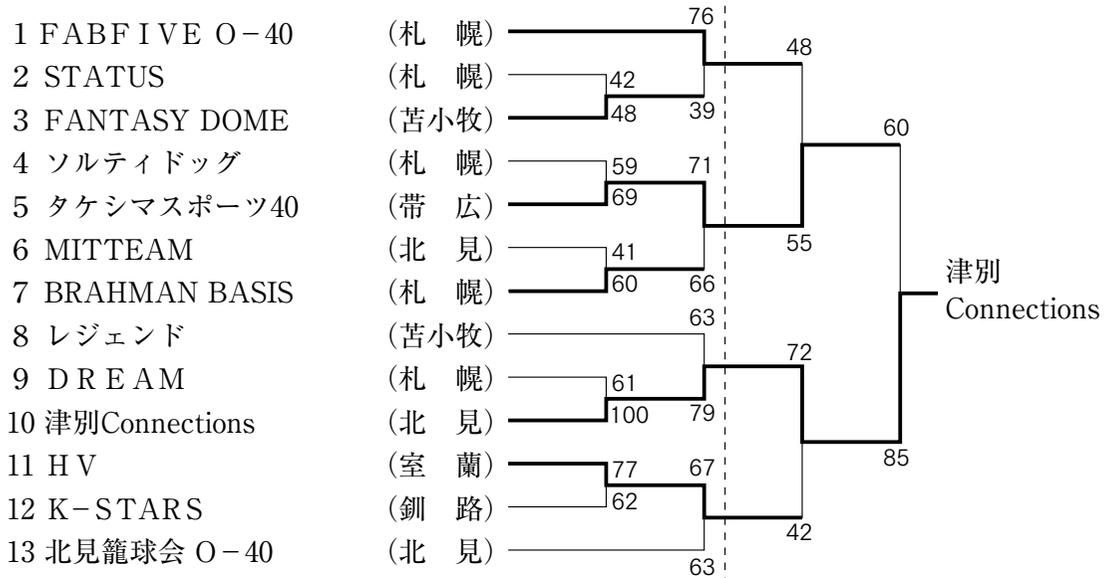
特集 I

第7回北海道社会人O-40/O-50、MF-50・60、 クラブバスケットボール交歓大会

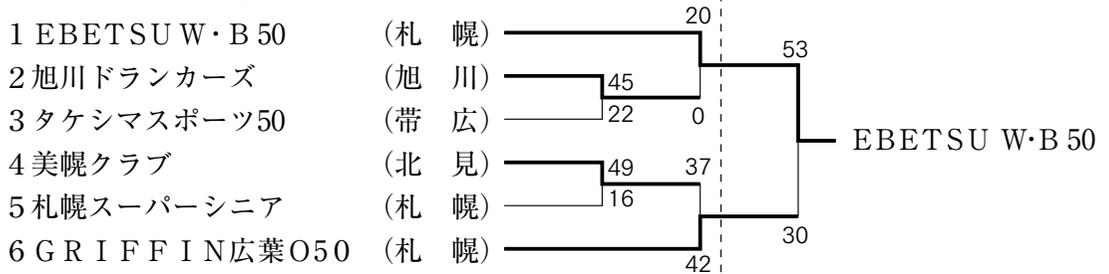
10月12日(土)

10月13日(日)

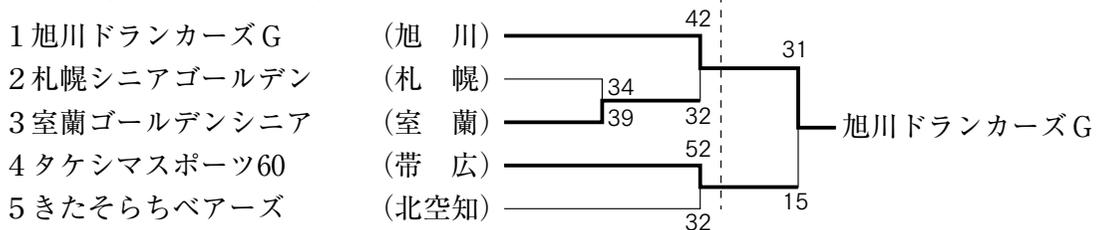
【O-40】道立北見体育センター



【O-50/F-50】留辺蘂町体育館



【F-60】留辺蘂町体育館





特集Ⅱ

美幌シニアクラブが5年振り「八幡カップ全国大会」出場

0-50フレンドリー全道大会が釧路市で6月1日・2日に開催されました。前回同様のフレンドリーのクラスに参加して優勝いたしました。

10月5日・6日岩手県花巻市で開催の「2024酒田市スーパーシニア八幡カップ全国バスケットボール花巻交歓大会」に2019年以来、5年振りの北海道代表として出場しました。

第7回 全日本社会人0-50バスケットボール選手権大会北海道ブロック予選
 第4回 北海道社会人バスケットボールフレンドリー交流大会
 開催日：2024年6月1日・2日 会場：釧路市ウインドヒルくしろスーパーアリーナ

【2回戦】

美幌クラブ 62 $\begin{pmatrix} 19 & - & 7 \\ 11 & - & 7 \\ 19 & - & 7 \\ 13 & - & 7 \end{pmatrix}$ 28 OLD ROOKIE

【決勝】

美幌クラブ 37 $\begin{pmatrix} 5 & - & 8 \\ 6 & - & 5 \\ 13 & - & 12 \\ 13 & - & 4 \end{pmatrix}$ 29 タケシマスポーツ

2024酒田市スーパーシニア八幡カップ全国バスケットボール花巻交歓大会
 開催日：2024年10月5日・6日 会場：岩手県花巻市立石鳥谷中学校体育館

【1回戦】

YAMATO (神奈川県) 37 $\begin{pmatrix} 11 & - & 9 \\ 1 & - & 0 \\ 9 & - & 8 \\ 16 & - & 10 \end{pmatrix}$ 27 美幌クラブ (北海道)

【敗者戦】

美幌クラブ (北海道) 37 $\begin{pmatrix} 12 & - & 9 \\ 0 & - & 1 \\ 17 & - & 12 \\ 8 & - & 8 \end{pmatrix}$ 30 山形スーパーひまわり (山形県)



特集Ⅲ

北見籠球会O-40が3年連続で全国大会に出場

2024年11月23日(土)～25日(月)に富山県砺波市、南砺市で開催された「第7回全日本社会人O-40/O-50バスケットボール選手権大会」に、北海道代表(北海道ブロック予選：準優勝)として出場しました。

第7回 全日本社会人O-40/O-50バスケットボール選手権大会北海道ブロック予選

開催日:2024年6月1日(土)・2日(日) 会場:ウインドヒルくしろスーパーアリーナ

【2回戦】

(1回戦はシード) 北見籠球会 O-40 62 $\left(\begin{array}{l} 14 - 13 \\ 13 - 12 \\ 16 - 11 \\ 19 - 17 \end{array} \right)$ 53 レジェンド

【準決勝】

北見籠球会 O-40 62 $\left(\begin{array}{l} 15 - 13 \\ 16 - 11 \\ 19 - 16 \\ 12 - 9 \end{array} \right)$ 49 EBETU W-B 40

【決勝】

北見籠球会 O-40 39 $\left(\begin{array}{l} 11 - 10 \\ 10 - 17 \\ 4 - 16 \\ 14 - 13 \end{array} \right)$ 56 FAVFIVE O-40

第7回全日本社会人O-40/O-50バスケットボール選手権大会

開催日:2024年11月23日(土)～25日(月)

会場:富山県西部体育センター、砺波市砺波体育センター、南砺市福野体育館

【1回戦】

北見籠球会 O-40 55 $\left(\begin{array}{l} 16 - 27 \\ 13 - 27 \\ 8 - 19 \\ 18 - 6 \end{array} \right)$ 79 西北五シニア





バスケットボールと人間性

北見藤高等学校男子バスケットボール部

主将 伊藤 愁

私は中学一年生からバスケットボールを始め約6年間でプレーを始め上手くなるために必要な人間性を学びました。

私が北見藤高等学校を選んだ一番の理由は顧問の増子先生が自分に声を掛けてくれたことです。中学校の春季大会で私たちのチームの試合を見てくれて試合後に私を褒めてくれたことです。試合ではあまり勝てないチームでしたが先生のいる高校で成長して勝ちたい気持ちが溢れ私は北見藤高等学校に入学することに決めました。

入学してから部活以外のことでつまづきました。挨拶です。入学後、何もわからなかった私は挨拶をろくにせず、先生や先輩からよく叱られていました。ある先輩からは挨拶や返事が出来ないやつはバスケットボールをやる以前の問題だと言われました。私はそのことを理解せず笑って過ごしていました。チームでは私は主力に近いなかで練習や試合をしていましたが、試合の中で先生から名前を呼ばれたのにも関わらず、私は返事をしなかったため、返事をしなかったという理由で主力メンバーから落とされました。その時に先輩からの言葉を思い出し、人間性を鍛え直そうと考え始めました。それからは挨拶や返事を始め後輩としての振る舞いや仕事など競技以外のことを率先して行動しました。

言動を改めているなかで少しずつ生活面が変化していくことを先生は見ていてくれて少しずつ試合で使ってくれました。そして先輩が引退して自分たちの代になり先生から主将は自分にすると言われました。一番主将らしくない自分が主将になりチームをまとめられるかとても不安でした。先生からは、お前の持ち味をチームに発信していけと言われました。考えた結果、私の持ち味は「声」だと思いました。仲間が良いプレーをしたら「ナイスプレー」と声を出し、辛い練習で下を向いている後輩たちに仲間が走っているから最後まで応援してやろうと励まし、プレーだけではなく声で発信していました。公式戦ではオホーツク地区を全勝で優勝しましたが、全道大会は新人選では2回戦敗退、インターハイ予選では6点差の接戦ではありましたが、一回戦負けと悔しい結果で終わりました。ですが北見藤高等学校はこのような結果で諦めるようなチームではありません。この敗戦からの反省を活かし北見藤高等学校は全国大会出場という目標に向かって毎日真剣にバスケットボールに取り組んでいます。

最後にいつもどんな時も支えてくれている保護者、学校の先生方、マネージャーに感謝しています。皆さんがいなかったら満足に出来ていません。そして一番近くにいる仲間がいたから素晴らしいバスケットボールが出来たと思います。

これからも北見藤高等学校の応援の程よろしくお願いします。





三年間を振り返って

北見藤高等学校女子バスケットボール部

主 将 橋 本 菜々美

私は小学校3年生からバスケットボールを始めました。習い始めてからすぐにバスケットボールが大好きになり、学年が上がるにつれ、地区で優勝したいという気持ちが強くなっていきました。小学校6年生で初めて地区ベスト4になり、中学校3年生では春季大会で優勝することができました。私は大好きなバスケットボールを高校でも続けたい、もっともっと強くなりたいという思いがあり、北見藤高校へ入学しました。

私は藤高校のバスケットボール部に入部して、たくさんの先輩方と同級生の仲間と一緒に楽しく、レベルの高い練習を重ねました。中学生の頃は部員が自分を含め7人で練習や試合をしたので、高校生になった私にとって15人以上いる練習は楽しい気持ちと緊張や不安の気持ちでいっぱいでした。それでも日々の練習から熱心に丁寧に楽しくバスケットを指導してくれる増子先生と優しく心強い先輩方のおかげで不安な気持ちはワクワクした気持ちに変わり、このチームで活躍できる選手になりたい、自分自身レベルアップしたいという思いで必死に毎日練習しました。

先輩方が引退して新チームになり、私はキャプテンに選ばれました。キャプテンに選ばれてからすぐに「地区優勝、全道ベスト4」というチームの目標を立てました。この目標に向かって自分が先頭に立ちチームを引っ張っていくんだと強く心に決め、新チームがスタートしました。

藤女子バスケットボール部は、とにかく元気がよく、明るいチームです。一人一人のプレーに個性があり、自分たちがプレーしていて、観客が見ていて、楽しくなるようなバスケットボールをチームでつくっています。練習中やベンチ、コートでも自分たちで思ったことを喋り続けて常にコミュニケーションをとることを心がけています。全員が笑顔で苦しい時こそ楽しむということを練習中も試合中も忘れずにプレーしています。

私が1番心に残っている試合は、高校3年生の高体連の決勝です。最初から最後まで笑顔で楽しんで、自分たちらしいプレーで戦うことができ、優勝しました。ベンチからの声も観客の歓声も仲間を抱きしめ合った瞬間も忘れません。最高の時間でした。

高体連の全道大会では、旭川龍谷に1点差で敗れてしまいました。悔しい結果で終わってしまったけれど、最後までチーム全員で必死に戦い切りました。このチームで、どんなに辛い時も苦しい時もお互いを支え合って乗り越えてくることができ本当によかったです。私はこの最高のチームでバスケットボールができて幸せです。

最後に、私たちのことをここまで成長させてくれた増子先生、チームを支えてくれた先生方、いつもサポートしてくれたマネージャー、心強くてアドバイスをたくさんしてくれた先輩方、どんな時も一緒に戦ってきてくれた仲間たち、後輩たち、最後まで私についてきてくれたチーム、いつ

も応援してくれて支えてくれた保護者の方々、関係者全ての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。これからも、北見藤バスケットボール部の応援をよろしくお願いいたします。





1年を振り返って

北見市立小泉中学校男子バスケットボール部

主将 小山田 琉

昨年、春季大会で初戦に端野中と試合をし、1点差で負け初戦敗退という結果でした。

その後、中体連でも準々決勝で北光中に僅差で敗れ結果が思い通りにいかず悔しい思いをしました。

新チームになり、自分はキャプテンとしてみんなをまとめこの負けを次に活かそうと日々の練習に励みました。迎えた新人北大大会、旭川緑が丘中に予選で負けましたが、決勝トーナメントでは決勝まで進み北見対決を制し、優勝することができました。

3年生になり、春季大会で南中に決勝で敗れ2位という結果に終わり、悔しい思いをしました。中体連地区大会では南中にリベンジを果たすためにみんなで一丸となって戦いました。

南中のエースを止めるために先生やみんなで試行錯誤し作戦を練りました。決勝では、前半に自分たちのディフェンスが上手く機能し、相手のオフェンスを抑えることができました。自分たちもみんなでシュートを決め、前半13点差でリードし、3クォーター目も集中力を切らさず最終クォーターまで大きくリードをしていました。しかし、4クォーターで相手も負けじと点数を決めてきて試合終盤で1点差まで追いつかれました。でも、自分が冷静にならなければ自分たちのバスケットができなくなると思い、最後まで焦らずプレーをしました。仲間も自分の役割をきちんと果たし、ブザービートを決め、6点差で優勝しました。1年生の頃から中体連優勝を目標にしていた自分の代でやっと優勝することができました。先生やみんなで勝ち取った優勝だったと思います。

全道大会では、初戦は序盤から大きく点差を離し、1年生も含めた全員が出場することができました。2回戦は苫小牧青翔と対戦し、序盤から自分たちのペースで試合を進めることができました。途中、追いつかれそうな場面はありましたが、自分を中心に1個1個のプレーに集中し、15点差で勝利することができました。準決勝は札幌東月寒中と対戦。序盤から相手の堅いディフェンスや速攻からのシュートに苦しめられ、大きくリードされてしまい、3クォーター目も自分たちのバスケットができませんでした。最終クォーターで3年生の意地を見せ、最後は15点差まで追いつきましたが、敗れてしまいました。自分たちが新チームになってからずっと目標にしてきた全国出場にあと1歩届かず、とても悔しかったです。しかし、スラムダンクの山王工業の堂本監督の言葉「負けは大きな財産になる」のように負けを知って強くなると昨年実感したので、この負けを今後のバスケットボール人生に活かしていこうと思います。

最後に、僕たちを指導してくださった先生方、どんなときでも支えてくれた保護者の方々、自分たちを応援してくださったすべての方々にとっても感謝しています。本当にありがとうございました。





みんなとの夏

北見市立南中学校女子バスケットボール部

主 将 久保田 愛 梨

私は、1年生のときに先輩方のおかげで初めて“全道”という大きな舞台を経験しました。結果は1回戦で負けてしまいましたが、来年も再来年もこの舞台にまた立ちたいという思いが強くなりました。

そんな思いを胸に挑んだ昨年の中体連では、準決勝で小泉中に負けてしまいました。ですが、この悔しさをバネに12月の新人戦では優勝することができました。その後の北北海道大会では美幌北中に負けてしまい、決勝までいけなかったのですが、そこから今年の中体連に向けて、練習に励みました。

そんな中、迎えた4月の春季大会では、決勝でまた美幌北中に負けてしまい、2位という結果で終わりました。

そして、中体連当日。1回戦目は網走第二中でした。みんなで声を出して、全力でプレーし、勝利しました。2回戦目は斜里中でした。なかなか点差が広がらず、最初から最後まで接戦でしたが、勝利しました。準決勝は昨年と同じく小泉中でした。最初からリードを保ち、4Qには全員出場することができ、勝利しました。そして、決勝は美幌北中でした。北大会、春季大会で負けてしまった相手であり、ライバル意識のあるチームでした。その分、絶対勝つという気持ちが大きかったです。2Qが終わり、42-22の20点差で勝っていました。ハーフタイムを挟み、3Qは会場の雰囲気のにまれ、ミスが重なってしまい、52-47と一気に5点差まで追いつかれました。4Qはお互い点を取り合い、最後は66-57で勝利しました。コートやベンチにいる仲間、先生方、保護者の皆さん、男子などたくさんの人の声援があったからこそこの優勝だと思います。

組み合わせが決まり、準決勝で昨年優勝の東月寒中と戦うことになり、夏休み中はコンタクトの練習やDFの練習、高校生と練習試合をさせてもらったりと、暑い中きつかったですが、みんなで全国に行くという思いでやりました。

そして、全道当日。1回戦目は稚内潮見が丘中でした。相手はたくさん攻めてくるチームで、DFのよりが少しでも遅いと簡単に点を取られてしまいました。2Qが終わり、31-21で勝っていました。3Q、4Qが始まっても、一人のミスを全員でカバーし、51-41で勝利しました。2回戦目は江別第二中でした。1Qから19-21と追いかける展開になってしまいましたが、2Qが終わり、31-32と1点差まで詰め寄ることができました。ハーフタイムには、チームで改善点を出し合い、いい雰囲気です3Qに入りました。一時は同点までいきましたが、逆転することができず、41-42で最後の4Qに入りました。4Qは相手のシュートタッチが良くなり、たくさん3Pを打たれてしまい、49-57で負けてしまいました。色んな思いが溢れてきて、とても悔しかったです。

私がバスケ部に入ってから今まで、数え切れないほどたくさんの人に助けてもらい、支えてもら

ったと思います。みんなと楽しくバスケができて、時には苦しいときもあったけど、乗り越えられてきたのは仲間や保護者の皆さん、先生方のおかげだと思います。すごく感謝しています。これからもいつも笑顔のみんなでいてください。11人で全国には行けなかったけど、南中バスケット部をずっと応援しています。





『最強な仲間と練習してきた3年間』

小泉・端野ミニバスケットボール少年団

主将 神戸 冨介

ぼくがバスケットを始めた理由は、お父さんとお兄ちゃんがバスケットを楽しそうにやっていたから、自分もやりたい！！と思って2年生の秋から始めました。

4年生の時、初めてユニフォームをもらう事ができてとてもうれしかったのを今でも覚えています。

試合に出させてもらったときは、一生懸命がんばりました。

練習中に左足首を骨折してしまい約3～4週間練習ができなかったのも悲しい印象でのこっています。

秋季大会は、4位で全道大会に出られなくて悔しかったです。

5年生の時に、1番印象にのこった事は全道大会でミドルシュートを決めれた事です。

そして、ぼく達が最上級生になった時のライオンズ戦は練習でやった事を出して順調に初戦、2回戦を勝ち進み結果は優勝！！とてもうれしかったです。

その後、ゴールデンウィークの遠征の時にライバルの白石と戦いました。結果は9点差で負けてしまいこれをきっかけに毎日の練習をあげみました。月日がたちついに秋季大会。最初は緊張していたけど、声を出していたらリラックスができいつものプレイができました。結果優勝。とてもうれしかったです。全道大会のトーナメントが発表された時、準々決勝であるライバル白石だったのです。『絶対に勝つ！』という気持ちでさらに練習にはげみました。いよいよ全道大会。1回戦目は月寒。3コーター始まりにボールをもらい速攻でダブルクラッチを決めてとてもうれしかったです。月寒には勝ち、2回戦目は札幌北。緊張をされていていつものプレイができなかったし足の痛みも出てしまったけどみんなの力もあり勝てました。そしてついに白石戦。今までにない緊張感を感じながらプレイをしてしまいドライブをはずしてしまいわるい展開だったけど難しいたいせいのシュートを決めて自分の気持ちをあげていきました。3コーターはロースロアの展開でなかなかシュートも入らなかったがオフェンスが調子悪いならディフェンスをがんばろうと決めて2ブロック3リバウンドのディフェンス面でがんばりました。4コーターもお互い点数は入らず結果は9点差で負けてしまいとてもくやしかったです。来年は絶対に優勝してほしいです。

ぼくは、小泉・端野ミニバスケットボール少年団に入って、バスケットが上手くなった事と友達が増えた事と、いろいろな人とコミュニケーションが沢山取れるようになった事と大きな声をだしチーム全体を盛りあげられた事はとてもうれしかったです。とてもいいバスケ人生の第一歩になりました。

中学校にいてもバスケをがんばるのでひきつづきおうえんをよろしくおねがいします。





思いが力になる

北見ポプラガールズ少年団

主将 田中 莉子

私は3年生の10月にバスケットを始めました。きっかけはお母さんとお父さんがバスケットをやっていたので興味があったことと、お母さんが小学生の頃に通っていた「北見ポプラガールズ少年団」に体験に行ったときの出来事です。体験会では、同学年の子が一人だけしかいませんでしたが、その子はとても上手でかっこよく、一緒にバスケットをしようとして熱心に誘ってくれました。その時の憧れと嬉しさは今でも覚えています。気が付けばバスケットに夢中になり、初めての試合でパスカットをしてディフェンスを褒められた時の嬉しさは忘れもしません。バスケットを通して仲間との絆も芽生えてきたことでした。私をバスケットに誘ってくれた子の転校が決まりました。涙の別れでしたが、それぞれ違うチームで頑張り、6年生になったときに全道大会の決勝の舞台上で戦う約束をしました。

4年生になると同学年の仲間も増え、その年の先輩方が全道大会に連れていってくれました。全道大会では、順調に勝ち進み決勝戦の舞台上に立ちました。4年生の私は決勝戦では何もできず、ただ先輩方の背中を目に焼き尽くすだけでした。この時、私は、2年後にもう一度同じ決勝の舞台上に立ち、自分の力で全国大会への切符を手にするのを心の中で誓いました。それから、無我夢中でバスケットの練習に励みました。両親は毎日のように夜遅くまでバスケットの練習に付き合ってくれました。無理を言って札幌の練習会まで送迎してくれたこともありました。

6年生となりキャプテンを務め、監督やコーチの熱心な指導のもと、仲間と練習を重ね、たくさんチームと対戦してきました。そして、とうとう最後の大会の日が来ました。地区予選を順調に勝ち進み全道大会へ出場を決めました。2年前に誓った全国大会への切符を手に入れると心に決め、緊張と楽しみで一杯の全道大会当日、1回戦の相手は清田緑でした。プレッシャーと緊張でみんないつも通りのプレーができず、前半を追う展開で折り返します。徐々に良いプレーが増え、何とか逆転に成功し勝利を収めました。2回戦の名寄、準々決勝の澄川との試合では緊張も解け、良いプレーが増え順調に勝つことができ、最終日に駒を進めました。準決勝の相手は、これまでに練習試合で勝ち負けを繰り返してきた最大のライバルである北都でした。1Pからリズムを作ることができず、前半を10差を追う展開となりました。3Pでは最大14点差をつけられましたが、諦めることなくディフェンスからリズムを作り4P残り2分には3点差まで詰めることができました。しかし、最後は相手の猛攻を止められず、結果は7点差で敗戦となりました。悔しくて悔しくて涙が止まりませんでした。それでも、これまで出会った仲間とともに勝ち取った全道大会3位という結果に悔いはありません。バスケットを通して関わった仲間やバスケットを教えてくれた監督・コーチには感謝の気持ちで一杯です。そして、バスケットをやらせてくれたお母さんお父さん本当にありがとう。

バスケットを通して仲間との思いやりやチームスポーツのむずかしさを学びました。仲間や親、監督、応援してくれる人たちへ感謝することの大切さを学びました。この経験を生かして次のステップでは全国大会出場を目指して頑張ります。「思いが力になる」ポプラガールズの横断幕に掲げられたこの言葉を胸に刻み、私はリングにシュートを打ち続けます。



2024年度 大会一覧表

大会名	開催日	開催地	優勝チーム	
			男子	女子
第36回北見地区春季 高校バスケットボール選手権大会	4/13・14・20	訓子府	北見藤	北見柏陽
第26回北見地区中学校バスケットボール 春季大会	4/27～29	網走	北見南	美幌北・ 津別・美幌
令和6年度高体連オホーツク支部総合体育大会バスケットボール競技大会兼 令和6年度全道高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会オホーツク支部予選会	5/22～25	網走	北見藤	北見藤
第43回道新杯争奪春季クラブ選手権大会	6/15・16	留辺蘂	網走クラブ	北見籠球会
第41回北見地区ミニバス夏季交歓大会 第3回北海道ミニバスサマーフェスティバル予選会	6/23・29・30	網走 美幌 大空	小泉・端野	ポプラG
第53回オホーツク中学校バスケットボール大会	7/7・13・14	北見 留辺蘂 津別	北見小泉	北見南
第16回北見地区中学校バスケットボール 秋季大会	9/7・8	美幌 津別	/	/
第77回北見地区高等学校バスケットボール選手権大会 第77回全国高等学校バスケットボール選手権北見地区予選会	9/14～16	留辺蘂	北見藤	北見藤
第5回U-15選手権大会北見地区予選会	9/21・22・23	網走	北見南	北見南
第7回北海道社会人O-40/O-50、フレンドリー クラブバスケットボール交歓大会	10/12・13	北見	/	/
小柳中央堂杯争奪秋季クラブ選手権大会	11/9・10	網走	北見クラブ	BIHORO
第39回北海道中学校新人戦大会兼 第39回北見地区協会代表決定大会	11/10・16・17	訓子府 北見	北見南	美幌北
第42回北見地区ミニバス秋季交歓大会兼 第50回北海道ミニバス大会北見地区予選会	11/17・23・24	美幌 北見 大空	小泉・端野	ポプラG
第65回高体連オホーツク支部新人選手権大会兼 全道高校新人大会オホーツク支部予選会	12/12～15	北見	北見藤	北見藤
2024年度 オホーツクバスケットボール社会人リーグ戦	1/25・26・2/1・2	留辺蘂	/	/
第40回北見中央ライオンズクラブ旗争奪 兼第28回北見地区冬季交歓ミニバスケットボール 6年生大会	2/9・16	北見 美幌	小泉・端野	美幌・北見南
第38回北見中央ライオンズクラブ旗争奪 兼第26回北見地区冬季交歓ミニバスケットボール 新人大会	2/11・16	北見	小泉・端野	ポプラG
2024年度SPORTS DEPO杯争奪 第58回北見地区総合選手権大会	3/9・15・16	留辺蘂	VERTEX	北見藤